

【森林保全部門】

シカ防護ネットのノウサギ侵入等に対する有効性の検証について

四国森林管理局 森林技術・支援センター
企画官（技術開発・普及）江入 力男

1 課題を取り上げた背景

ノウサギによる苗木被害が顕著化するなかで、当センターでは平成29年度からノウサギの捕獲や苗木被害の防除、ノウサギ行動調査等に取り組んできました。令和2年度より、複数種類の防護ネットについて防護効果の検証等に取り組んだ結果、シカ用防護ネットの目合いの細かいものをL字型で張ったネットが防除効果が高いとの認識に至ったところです。このことから、ノウサギによる苗木被害が多く発生した石原山続新山においても十分な効果が得られるか、また、ネットの素材や張り方について改めて検証することを目的として、令和6年度よりノウサギ侵入に対する防護ネットの有効性の検証に取り組むことにしました。

2 取組の経過

素材の異なる3タイプの防護ネットを使用して、防護柵の内側からネット下部（地面から1mの高さ）をセンサーハメラで観察する方法でノウサギによるネット被害の確認を行いました。

○タイプ別ネットの仕様（本体ネットの目合いは全て5cm）

タイプA：L字張り用ネットで、地際から1mにステンレス線入りタイプ。

タイプB：垂直張り本体ネットに高さ1mのナイロン製16mm目合いを張り合わせたタイプ。

タイプC：L字張り用ネットで、地際から1mに超高分子量ポリエチレンを原料とした纖維入りタイプ。

2つの試験区に、それぞれ3タイプの防護柵を設置しました。センサーハメラは、その内側に夜間8台、昼間1台を稼働する配置とし、6プロット合

計54台で観測しました。また、誘引する目的でネット内にスギ・ヒノキの苗木をネットから1m程度の距離をおいて配置しました。センサーハメラでの観測は令和6年11月から開始し、令和7年1月末までの3か月間はネットに接触する行動は確認できなかったことから、冬季で餌が枯渇している時期も考慮して2月～3月に掛けて、誘引餌（大根葉）を植えてネット被害の誘発を促し、3月以降は自然に生える草類で観測を実施しました。

3 実行結果

令和7年3月上旬に試験区1のタイプCで2か所のネット切断被害が発生していることを目視により確認しました。動画ではその内の1箇所の被害発生状況を確認することができました。動画の内容は、ネット際の誘引餌を食する際に頭がネットの目合いに入り込み、抜け出すことが出来なくなつて脱出しようとするうちにネットを噛んで切断が発生している様子が映っていました。このような行動は、タイプAのネットでも見られましたがステンレス線が入っているため切断はされませんでした。

タイプBのネットでは外側に張ったナイロン製のネットで軽微な切断被害は見られたものの餌に誘引される行動は見られませんでした。

4 考察

センサーハメラによる観測結果から、

- ① 素材の異なるネットで切断や噛み傷の発生が異なることを確認できた。
特にタイプCは素材が柔らかく、頭が入り込みやすい傾向がみられた。
- ② 張り方（L字張り、垂直張り）に大差はないことを確認できた。
- ③ ネット際の植物に反応していることを確認できた。

防護ネットの有効性については、ネット際から1m程度離して苗木を植栽すれば、外部から侵入するといった行動はみられなかったことから、ノウサギによる苗木被害はタイプAとタイプBで防除効果が有効であることを確認しました。